

2017
おもろ
チャレンジ

アメリカ本土に根付く建設機械マーケットを探り、
起業を成功させる

工学部 4年

山本 大介

アメリカ合衆国

2017年9月18日-2017年9月29日、
2018年2月21日-2018年3月17日



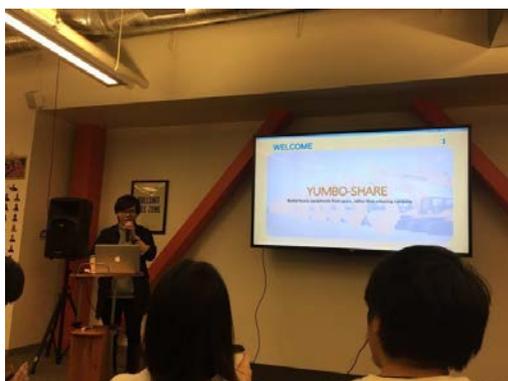
渡航概要と内容

概要としては本プログラムでは大きく2つの事柄を行った。

- ①アメリカの建設機械業界の市場調査
- ②自身のアントレプレナーシップを養うためのアントレプレナーシッププログラムへの参加

①に関しては、2028年オリンピックを迎えたロサンゼルスでの建設ラッシュに関して、建築会社、施工会社を含めた日本とは違うシステムで動くアメリカのデベロップメントシステムを調査すること。そして、自分が開発を考えていた建機シェアリングに近いサービスを運営する会社 (Equipment Share) を調査し、最大のネックである運送費の問題を探ることを目的としていた。

②に関しては、500startups がバックに付いているアントレプレナーシッププログラムであり、現地の名だたる企業を訪問しながら、自己のビジネスプランを磨き最終日に投資家の前でピッチを行うというもの。この中で起業家としての力を身に着けたいと考えていた。



- ・ 渡航中に日本との文化の違い等から苦勞したこと

特に②に関しては、プレゼンの資料を伝えるという部分に関して、日本人はどうしても自分が考えていることを文章にしてすべての情報を過不足なく伝えようとする。一方で、アメリカ人はスライドに文章を詰め込まないのが有名なように、言いたいこと(結論)をすぐに求めたがる。したがって、自分のビジネスプランをどれだけ濃く作っていてもそれが伝わらないという現象が生じる。そこに対応するのにかなりの苦勞を要した。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

①の項目と被るが、やはり伝えるという技術である。

自分が考えていることを文章にしてすべての情報を過不足なく伝えようとするのではなく、相手の頭の中をイメージして、何が伝わりやすいのかを考えてコミュニケーションを取る必要があった。これはおそらく同質性の高い日本で育つと、アメリカのような人種が多様な国と比べて、行間を読み合うということができる。したがって、相手の頭の中を想像せず自分の思うがままに喋っても相手に伝えたいことが伝わるのである。しかし、おもろチャレンジを通して、やはり世界で戦うためには1億の日本ではなく、70億の人類を相手にしなければならない。そうなったときに、自分が持っているコンテンツがどれだけ魅力的でも伝え方という問題でそれがすべて台無しになる。語学の重要性もちろん学んだが、それ以前のコミュニケーションの本質をこの渡航では学ぶことができたと思う。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

一定期間以上海外にいる経験の中から、やはり自分の知らない世界に行き、その文化に触れ、社会に触れていくと、自己の認識が変わると、そこから生まれてくるアイデアにも変化が起こったのが目に見えてわかった。したがって、2019年からロンドンとニューヨークに半年ずつ、クリエイター留学を行うことにした。その中で、まずは自己変容を起こすこと。枠にはまらない自分を作ること。そして、世界70億で通じる自分というメディアを生み出すために努力を行いたいと考えている。

今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

数年前までは、留学に行くことが美德とされていた。が、今はSNSの登場でパーソナルな意見が巷にありふれるようになってか、留学に言っても、就活ではコモディティ化して役に立たない、遊んでばかりしてしまって何の役にも立たない、みたいなむしろネガティブな意見が溢れている気がする。結論から言うと、美德もないし、そこで身につくことがなにもないわけではない。ただ一つ大事なのは自分がそこで何をしたいか。これに尽きる。これさえ持っていれば、日本で過ごすよりも数倍の成果が得られるはず。

■ 主な奨学金の使途

*渡航費

*プログラム参加費 など